

## 公開研究会「21世紀都市の展望 大阪の都心創生を考える」

Kansai Tomorrow (関西活性化) 会「都市創生に関する研究会」では当研究所初の試みとして、研究活動中間段階での研究成果の報告と意見徴収を目的に、8月3日、公開研究会を開催した。ゲストの方々から、森ビル(株)六本木ヒルズ開発、三井不動産(株)日本橋街づくり、UR都市機構大阪駅北地区再開発構想、京阪電気鉄道(株)中之島新線開発の4事例の説明を受け、当研究会の中間的な成果として南北の中心軸を御堂筋から西に移動した場合を想定した「社交都市 大阪」を提唱した。

### 1. 都市創生部会の過去の研究成果の経緯、公開研究会開催の主旨の説明

(主査：慶應義塾大学教授 跡田直澄氏)

### 2. 研究成果中間報告「21世紀都市の展望 大阪の都心創生を考える」

(委員：大阪市立大学大学院工学研究科都市系専攻助教授 嘉名光市氏)

研究部会に招聘したゲスト3氏からの提言を紹介。代表的な都市論をいくつか紹介した後、社交都市を編集する必要性、21世紀大阪の都市構造を見直すこと、編集の核となる場をつくること、を中間的研究成果として報告。

### 3. ゲストの事例説明

#### (1) 六本木ヒルズ開発の事例 (森ビル(株)社長室広報部長 磯井純充氏)

「文化都心」、「縦型田園都市」を実現。

#### (2) 日本橋まちづくりの事例 (三井不動産(株)日本橋街づくり推進部長 中川俊広氏)

「残す、蘇らせる、創る」のコンセプト。三井発祥の地へのこだわり。日本製の街づくり。路地の再生計画。百尺スカイラインの統一。

#### (3) 大阪駅北地区開発の事例 ((独)UR都市機構西日本支社業務ユニット総括リーダー

渡部久仁雄氏)

先行開発地域のコンペ当選案の紹介。初の試みとしてテナントとデベロッパーの両方同時のコンペ実施。24ha全体の構想の紹介。

#### (4) 中之島新線開発の事例 (京阪電気鉄道(株)都市開発部長 木村純夫氏)

上下分離方式の紹介。西への延伸構想。経済軸(南北)と文化軸(東西)の考え。

### 4. ディスカッションの要点

・(委員・コーディネーター：大阪市立大学都市研究プラザ教授 橋爪紳也氏)

上記の研究成果中間報告と4件の事例説明から共通の概念を抽出して要約した後、ポスト北ヤードの都市創生の討論へと繋いだ。

・(嘉名委員)

大阪都心部の南北軸が現在は御堂筋に集中しているが、大正・昭和初期には大阪駅前から始まる四ツ橋筋が中心軸であった歴史を紹介し、軸を西に移動させた場合の構想を紹介。大阪駅北地区、中之島新線、西梅田開発、朝日放送・オリックスによる阪大跡地再開発などを前提に、今後10~20年後における中之島西部を中心とした“Greater 中之島エリア”で社交都市を編集する必要性を説明。水都再生の方法として江戸時代

の舟溜まりを中之島の公共用地を利用して設けたり、大阪駅北地区から中之島までに運河を開削する案を説明。これは地下水圧上昇の重大問題の解決策にもなる。公共用地は都市編集の核となる場として重要であることを強調。

・(委員：神戸大学大学院COE 研究員 石川路子氏)

アメリカ・ワシントン州・シアトル市内の海岸沿いの高速道路の地下化計画に関する視察調査結果を紹介。市民参加と連邦予算の獲得方法に関する示唆。

・(跡田主査)

関西では関空 期以降に兆円規模のプロジェクトが無くなる。必要な都市整備には財政投資が必要であることを主張。

・その他ゲスト各氏からは都市開発に歴史・文化面の重要性が強調された。

(文責：事務局)

